

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 4 日現在

機関番号：37123

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010 年度～2012 年度

課題番号：22592632

研究課題名（和文） 福祉用具の有効活用に繋がる自立支援プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of the program to support oneself which leads to Effective use of welfare equipment

研究代表者

大倉 美鶴（OHKURA MITSURU）

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：70364172

研究成果の概要（和文）：本研究は、2010 年度から予定の 3 年の研究期間を経て、完成年度の目標に到達することができた。具体的には、2006 年から作成した「福祉用具有効活用に繋がるガイドライン」および「身体・認知レベルの標準化アセスメントシート・継続モニタリングシート」と本研究で作成した「自立支援評価指標」とが連動可能な自立支援プログラムを開発した。自立支援プログラムを試験的に実施したが幾つかの課題が見つかった。今後、プログラムの更なる改善が必要である。

研究成果の概要（英文）：This research was started from 2010. In three years, this research was able to reach the target. The "guideline which leads to welfare equipment effective use" created from 2006, "the standardization assessment sheet and continuous monitoring sheet of the body and a cognitive level", combined with the "independence support evaluation index" developed in last year was arranged a program. Some problems were mentioned although I got the specialist to use a program in the experimental stage. Therefore, it is necessary to make an improvement from now on. In the near future, we are going to finish the program.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医・歯・薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：在宅看護

## 1. 研究開始当初の背景

## (1) 研究の学術的背景について

介護保険制度開始（2000 年）後、病院の入院期間の短縮、医療報酬・介護報酬の改定、療養型病床群の廃止案に伴い、病院・施設よりも、在宅を中心とした地域ケア（在宅ケア）

に焦点が絞られている。在宅看護の分野においては、年々医療依存度が高く、身体機能低下の著しい要介護者が増加している。今日の訪問看護ステーションにおいては、スタッフの定着率が低いことも重なり、専門職のマンパワー不足が生じ、ニーズに即した訪問看護

の対応が困難となりつつある。故に、メンバーに頼る前に、要介護者自らが責任を持ち、問題を解決するエンパワーメントの考えに基づいた福祉用具の使用が自立を勧める優先的な支援として推進されている。

そうした社会情勢の流れに伴い、ここ近年、国内において、在宅ケア利用者の自立支援に向けた研究が数多く報告されている（内田、ケアマネージャーからみた介護予防の条件、The kitakanto Medical Journal. 2006）。

## (2) これまでの研究成果について

私は、これまでに調査した福祉用具使用頻度と身体機能との関連（2005）や福祉用具貸与のモニタリングに関する調査（2006～2007）の成果を基盤に2007年から科学研究費補助金を受託し、自立支援に向けての福祉用具有効活用法に関するガイドラインの作成と、福祉用具導入の選択に必要な身体・認知機能レベルを判断するためのアセスメントシート・継続モニタリングシートなどを作成した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、福祉用具（主に特殊寝台、車いすなど）の有効活用に繋がる自立支援プログラムを開発することである。

具体的には、今日までの研究成果を基盤に、福祉用具活用の導入段階である福祉用具の必要性および用具選定における判断（基準）から、最終段階である有効活用の評価（指標）に至るまでを一連のプログラムとして連動化させた自立支援プログラムを形成する。

## 3. 研究の方法

本研究は、3年間で完結することを目指し、主に2つの課題について取り組む。

(1) 課題1は、2年間で福祉用具自立支援評価指標を作成する。そのために、まず自立支援の関連因子を明らかにし、自立支援効果を評価するための項目基準を作成する。更に2年目に自立支援評価指標としての妥当性・信憑性を確認するため、専門職を対象にアンケート調査を実施し、項目の追加・修正を行い、「自立支援評価指標」として作成・提示する。

(2) 課題2は、現在までに開発した「福祉用具のガイドライン」および「身体・認知レベルの標準化アセスメント・継続評価モニタリングシート」を「自立支援評価指標」と連動させ、福祉用具導入から自立支援評価に至るまでの各プロセスを確立させ、一連の自立支援プログラムとなるよう形成する。

## 4. 研究成果

### (1) 自立支援評価指標の作成

自立支援評価指標について、専門職者ら（リハビリ医、訪問看護師、ケアマネージャーなど）と自立支援評価指標に関する必須項目を国内外の先行文献や、施設などが作成している独自の自立評価指標を基に検討した。

(2) 評価項目基準については、要介護度（身体・認知）、ADL 評価、社会参加、心理変化、介護負担感の5項目に絞り、各項目に必要な内容を検討し、要介護度以外の項目（ADL, 社会参加、心理変化、介護負担感）は、それぞれ、約3～4つの視点に分類することができた（表1）。また、各評価視点の項目については、評価視点それぞれにつき2～3個の評価指標（5件法）でチェックすることができる。

表1 福祉用具自立支援評価指標の視点

項目	評価視点
ADL 評価	排泄動作
	清潔動作
	食事動作
	移動
社会参加	活動
	意欲
	幸福感
心理変化	衝撃
	満足度
	適応性
介護負担感	気分
	悩み・心配
	社会参加

### (3) 信憑性・妥当性の検証

専門職者を対象に聞き取りアンケート調査を行い、項目の組み合わせ、項目数、文字フォント、デザインなどを変更し、修正を繰り返した。

チェック項目の回答に対する分散の程度をみるためにクロンバックα信頼係数を測定したが、0.71であった。信頼係数は、0.8以上が妥当だとされているため、チェック項目の数を増やすなどし、修正を行った。時間的な制約があるため、引き続き評価指標については検討を重ねるとし、本研究では、修正したものを完成版とした。

### (4) 自立支援プログラムの開発

これまでに作成した「福祉用具の有効活用に繋がるガイドライン」および「身体・認知機能レベルの標準化アセスメントシート・継続モニタリングシート」を「自立支援評価指

標」と連動させられる自立支援プログラムを作成した。「自立支援評価指標」とプログラムの作成には、共同研究者や専門職者（介護支援専門員）らの意見を反映させ、修正を繰り返しながら完成させた。

次に完成した自立支援プログラムを専門職者 10 名に試験的に活用してもらい、その使用感と合わせて、自立支援プログラムとしての機能について聞き取り調査を実施し、新たなプログラムに向けて改善の参考とした。

聞き取り調査による専門職からの意見では、①対象に適切な福祉用具の選択が可能なことや、②モニタリングの視点が焦点化されやすく、取り組みやすいとの評価を受けた。一方で、③使用するシートの項目が多く時間がないときはストレスになること、④使用方法の説明をしっかりと受けないと用語の解釈が難しく気軽に使えないこと、⑤一般化や長期継続につなげるための更なる工夫が必要であることなどが課題として挙げられた。

従って、今後は、長期継続や一般化（誰もが気軽に使える）に繋げられるための自立支援プログラムとなるように修正を重ね、最終的に完成させることを目指す。

(5) 自立支援プログラムに繋がる活用の組み合わせ (図 1)

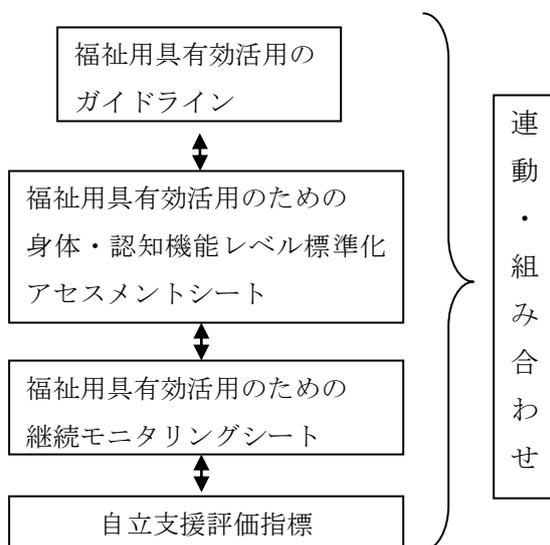


図 1 自立支援プログラムの組み合わせ

6) 福祉用具自立支援プログラムの詳細福祉用具を選定し、自立支援評価までの一連のプログラムを開発し、各ステップが連動しながら進められるように一冊のノートにまとめた (図 2)。

## 福祉用具の要望

↓

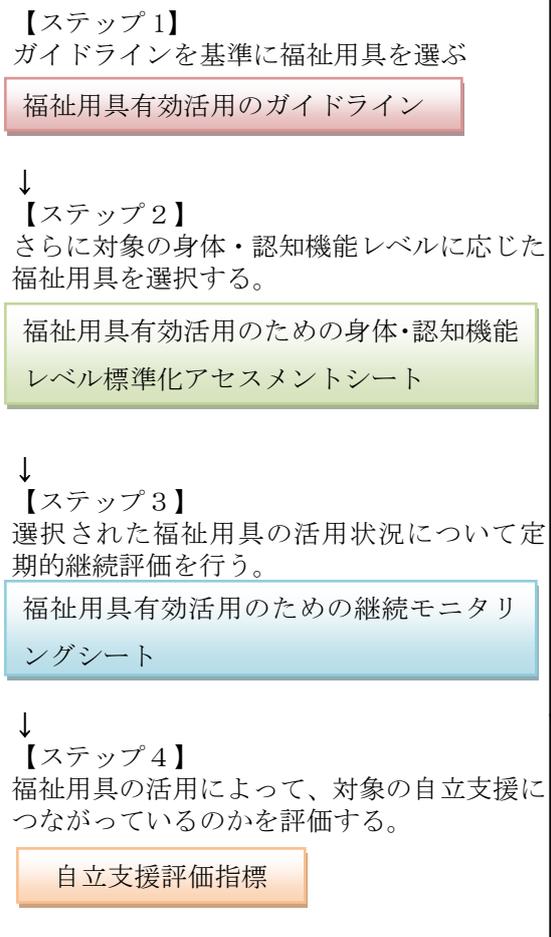


図 2 自立支援プログラムのステップ

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- 1) 大倉美鶴、特集 尿器 集尿器を上手に活用しよう、福祉介護テクノプラス、査読無し、6 巻、2013、24-26
- 2) 大倉美鶴、難病児をもつ家族に対する在宅移行に向けた長期的介入の試み、訪問看護と介護、査読無し、15 巻、2010、451-456

[学会発表] (計 1 件)

- 1) MITSURU OHKURA, Malnutrition Screening of Elderly People in the Local Community with NSI (Nutrition Screening Initiative), 14<sup>th</sup> Forum of Nursing Scholars, 11Feb, 2011, Seoul, Korea

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大倉 美鶴 (OHKURA MITSURU)  
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・  
准教授  
研究者番号：70364172

### (2) 研究分担者

田中 美加 (TANAKA MIKA)  
福岡大学・医学部・講師  
研究者番号：70412765

### (3) 連携研究者

村木 里志 (MURAKI SATOSHI)  
九州大学・芸術工学研究院・准教授  
研究者番号：70300473